

山内委員長記者会見のポイント
(第 268 回 (11 月 20 日) 郵政民営化委員会終了後)

1. 本日の委員会議事等について

- ・ 日本郵政グループから、2024 年 3 月期第 2 四半期等決算等について説明があった。

2. 委員会の質疑応答等について

- ・ 「土曜配達等をやめたことで、郵便の配達に時間がかかるイメージをもたれている可能性があるが、速達をブランディングするなど、もう少しアピールしたらどうか。」との意見に対して、

日本郵便から、「2024 年問題がある中でも、速達のサービス水準をしっかりと維持していきたいと思っている。速達の魅力をアピールすることも必要と考えているので、郵便の位置づけの中で速達の魅力向上をどう図っていくのか社内でも議論しながら進めていきたい。」との回答があった。

- ・ 「郵便ポストは一つの財産である。いかに使っていくかが重要。例えばポストの入口を大きくし、さらに使い勝手の良いものとすることにより、小さな物流をしっかりと取り込めるのではないか。」との意見に対して、

日本郵便から、「ゆうパケットポストは売り上げが伸びてきており、郵便ポストがある点が物流業界の中での強みと認識。現在、投入口の大きなポストを実証的に設置する等、投函の利便性向上に取り組んでいるところであり、実証も踏まえて検討してまいりたい。」との回答があった。

- ・ (本日の委員会模様の説明に加えて、) 11 月 1 日に江見駅郵便局の視察及び鴨川市との意見交換を行った。

3. 記者との質疑模様

- ・ (今回の決算の結果を受けて、3 年ごとの見直しの意見にどのように反映するのか。これからのビジネスモデルの在り方をどのように転換をするべきか等、感じたことは、と問われ、) 今回の決算はまだ 2024 年 3 月期第 2 四半期の一時点のものなので、関係がないわけではないが、3 年検証については、もう少し広い長期的視点で検証していくものであると思っている。ただし、今回の決算でも、日本郵便の問題は指摘できるものがあり、3 年検証では今後日本郵便をどう立て直すのが中心となると思うので、そういう意味での示唆はあったと思う。

- ・ (江見駅郵便局の視察について、市役所からどのような要望・現状の意見があったか、また、郵便局から課題・問題点の指摘があったか、と問われ、) 江見駅郵便局については、鉄道と日本郵便のコラボで、非常によいことだとの印象を受けた。市役所でのヒアリングでは、「鴨川市はいろいろな町村が合併してできた市であり、もともとあった町村の核に郵便局があって、郵便局の在り方を街づくりに活かしている」とのことであり、コラボのみならず郵便局が街づくりにも役立っているのが印象的であった。郵便局からは「郵便局は元々駅から遠くない所にあったので、郵便局を移してもそれほど利用者に対する不便はなく、むしろ、駅は人の流れの中心なのでメリットもある。デメリットがあるとすれば、鉄道の切符販売や情報提供の業務が増えるが、それほど郵便局の運営に差し障りがあるほどのものではない。」と伺った。また、鉄道側から見ると、元々江見駅は無人駅だったので、郵便局ができて、郵便局が切符販売等の一部事務を負担することで鉄道側のサービスも上が

るので非常に良い事例だと思っている。

- （本日の決算の説明のなかで郵便切手等の値上げの話は議論として出たか、と問われ、）決算の説明としては出ていない。一般的にそういった方針があるという話は聞いているが、詳細については存じ上げていない。

－以上－